

平成 25 年度第 1 回
生物多様性こうち戦略（仮称）策定検討委員会の概要

1. 日時：平成 25 年 5 月 14 日（火）13：30～16：30
2. 場所：高知共済会館 1 階「桜」
3. 出席者：策定検討委員会、事務局、四国生物多様性ネットワーク
4. 概要

(1) 戦略構成について

①構成について

- 現状と課題に項目を整理。まだ重複している部分もある。
- 執筆箇所を各自確認して、修正 5 月 24 日をメールで提出。次の合同会議に提出。
- 第 6 章「生きものの暮らす環境の変化」川の次に、海を追加。
- 農業は、幾つかの要素を付け足す。
- 「人の暮らしと生物のつながり」の文章は、独立させず原稿またはコラムで組み込んでいく。
- 「人の暮らし」の部分を見直す。
- 目次をソフトにしていく。「第 1 章 はじめに」「第 2 章 こうちの自然」「第 3 章 こうちの人の暮らし」「第 4 章 こうちの生きもの」

②原稿全体について

- P.88「人為的行為と生態系の関連」の文章、フローチャートと共に削除。
- 「高知県のこれまでの取組と施策」には、「生物多様性に関する主な法律の概要」を庁内調整後追加する。（担当課室名まで入れる。）
- 生態系の説明、アンケートは、巻末の資料編に載せる。
- 「生き物」の表記は、「生きもの」に統一する。
- 生物多様性、生態系、自然、環境など、適正な言葉の使い分けを。

③理念・目標について

- 理念は、公募するという案もあったが、デメリットも考慮した結果、公募していない。現案のままにしておくが、後で変更できないことはない。
- 理念の基本的な考え方、表現（「壊してきた生物多様性」、「手を加えて」）の再考。過去の反省にたつことは必要。「100 年かけて」は、100 年後には達成していたい。「私たち」や「みんなで」という視点を入れる。
- 理念の「囲まれて」は「恵みを受けて」の方がイメージに合う。100 年後のイメージは、「地域が維持され、人と生きものがともににぎわう」にする。
- 将来像の目標 A、目標 B は、短期目標、中期目標とはっきりわかるように書く。

- 短期目標・中期目標・GOAL の関係を説明しておく。短期目標は 10 年だけど、5 年毎に見直ししながら、次の 10 年、次の 10 年と積み重なって 50 年後の中期目標になる。順応的な戦略の修正がある。

(2) 行動計画について

- 高知県の戦略では、短期目標に絞り込んだ形で行動計画を立てる。あくまでもこの 10 年のことを考える。中期目標を実現するために短期目標を積み上げていく。
- 数値目標をかかないと、絵に描いた餅になる。
- 行動計画は、県予算にもかかわってくる。
- 行動計画の原案は、堅いが戦略書はブレないように押さえて、パンフレットは柔らかく、わかりやすく表現する。
- 目標 1 番「生物多様性の価値を把握して」を「理解し」に変更。
- それぞれの文末を「基盤をつくる」「促進する」「推進する」に変更。
- 目標 2 番「生物多様性を維持・再生するための仕組みと基盤をつくる」に変更。
- 目標 3 番は代替案「生物多様性の恵みを活かした地域産業の持続と活性化を促進する」
- 「回復」という言葉を入れる。
- 目標 2 番と 4 番を並べる。
- この検討委員会では、おおまかなものを決めて、タウンミーティングで出てきた意見を反映させる。

(3) 平成 25 年度事業計画について

①タウンミーティングについて

- ラフのマイナーチェンジは可能。
 - ・海の入っているラフを主軸に。
 - ・ひとの暮らし、三世代、ジェンダーの視点を追加
- タウンミーティングテーマ案 1 「みんなで考え、守ろう、地域の暮らしと生きものの未来」で決定。
- 各ブロックのテーマ
 - ・物部川「どう再生する、森と川と生きもの」
 - ・宿毛「地域の産物で生活したい」講師案／宿毛市 酒谷課長補佐
 - ・四万十川「里山・川で人を育てる」講師案／里山を考える会 池田十三生さん
 - ・本山「生かす農林業、守る伝統産業」講師案／(株)土佐嶺北の半田州甫さん
 - ・田野町「森から海へ。地域の自然を活用。」
 - ・高知市「古地図からみる高知の未来」講師案／高知市田村さん
- 話題提供は委員とは別に 2 名。講師は、担当委員と事務局と谷川氏でつめていき、

事後承諾をいただく。

- 担当委員の生物多様性の解説は、共通のPPTを作成し、ブレないようにする。

②事業所ミーティングについて

- 講師は日本自然保護協会の道家さんに依頼済み
- 出席要請は、第一次産業に絞り、各種取りまとめている団体を通じて参加してもらう
- 食品産業、加工業、生協など食のラインを追加。（サービス業は除く）

③フォトコンテストについて

- パンフレットの素材集めのために、フォトコンテストを実施する。
- 募集部門昔撮った同じ場所という意味でビフォー&アフター部門を追加。
- 原風景を押さえる意味でも、昔撮影した著作権の問題ないものは対象にする。
- 写真の応募条件などは外部審査委員に確認する。
- 展示会は無料、安価な会場で、来年度以降も移動式で開催する。

④その他

合同会議の日程 6月13日（木）13：30～